

平成26年度地域活性化活動助成の選考結果

(一財)北海道開発協会 会長 内田 和男

当協会では、21世紀の北海道開発の推進に寄与する、地域自らの発想による地域づくりを支援するため、平成26年度地域活性化活動助成の対象として、平成25年11月1日から26年4月21日までの間、道内における非営利の市民団体の活動について公募してきました。

これに対し、本年度は41件の応募をいただきました。応募された活動の内容は、環境、子育て・障がい者・高齢者支援、農業、観光関連など多岐にわたっており、さまざまな活動に地域の人々が精力的に取り組まれていることがわかりました。

これらの活動内容について、厳正な審査を行った結果、下記の9件を選考しました。

なお、平成27年度については、本年11月頃にホームページに募集要領を、「開発こうほう」12月号に募集広告を掲載する予定です。多数のご応募を期待しています。

平成26年度地域活性化活動助成団体及び活動内容

団体名	所在地	活動内容の概要（申請書から抜粋）
留萌観光連盟	留萌市	【離島観光地の森林および生活環境改善のための社会実験】 究極の限界集落ともいえる天売島において、小学校の環境教育と水源林整備、地域のエネルギー資源活用を結びつける仕組みを構築する。天売島は観光地として注目されながら、人口減少や燃料高騰の影響で厳しい状況にある。この活動では、地域の環境保全と生活環境改善のため、森林の整備を行い、発生した間伐材を施設整備や暖房燃料として活用する社会実験を行う。小学校の環境教育の授業でマーキングした樹木を伐採・搬出し、需要と用途に応じて加工し供給する方法を検討し、試行する。その仕組みを構築することにより、継続的な教育～森林整備～地域資源活用の繋がりが醸成され、地域の活力が高まり、観光地としての価値も高まる。また、限られた空間の離島における実証実験は、他地域の地域活性化にも参考になるはずである。
沼田町特別栽培米生産者の会	沼田町	【越冬野菜作りと雪貯蔵体験～農家のちえを学んであそぼ！】 現代ではお金さえ出せば、どの地方・どの国からでも食べ物が手に入る状況になっており、それが当然と思い暮らしてきている。開拓以来生活の中で取得し、継続してきている知恵は数限りなくあるが、その中に多くの道民が、自然活用の手法として雪を使った生活の知恵「野菜の雪貯蔵」の経験がある。そこでこれからの時代を担う子どもたちに、越冬用の野菜の播種・収穫・雪貯蔵・雪の中からの野菜の掘り起こしなど、かつて多くの道民が活用していた雪を使った生活の知恵を体験し、雪と親しむ機会をつくりたい。
特定非営利活動法人 アートチャレンジ滝川	滝川市	【空知の「空」から夢の実現をデザインする】 「空」を人類の「夢」の象徴と捉え、滝川を含む空知の空を「夢を大空に羽ばたかせる場」として発信することで、まちの特色ある観光資源を磨き上げることを目的としています。本事業では、「Open Sky project」の自作飛行装置の展示および試験飛行ならびにイベントにおける公開テストフライトを実施するとともに、同プロジェクトを主宰するアーティストであり、テストパイロットでもある八谷和彦氏による講演会などを通じて、夢を大空に羽ばたかせる場・滝川を強力に発信します。また、展示については、滝川で進めている世界的にも貴重で歴史的価値の高い古典機を修復し飛行させる「ヴィンテージグライダー復旧プロジェクト」とリンクして実施します。これらの事業を通じて、多くの人が空知の空への魅力を感じ、より多くの人がこのまちに集う仕掛けづくりにチャレンジしていく。

層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ	紋別市	【来訪者の回遊性及び活動の認知度向上に資する域内ゲートウェイでのマルシェ他の実施】 域内ゲートウェイであり、道内有数の観光地である上川町層雲峡の紅葉や、大雪森のガーデンの来訪者を、遠紋地域の「花」他の多様な資源に如何に結びつけ、誘導するかが課題。また、新規のシーニックバイウェイルートであり、域内外に対する認知度向上も課題。対応策として、域内のゲートウェイで、個人旅行ユーザーを対象に域内の魅力、活動内容を伝え、ユーザーの評価・ニーズを把握し、取組を高度化させる。 ・域内農商工業者等との連携による地域色豊かな野菜や果物、特産品などの販売を行うマルシェを開催。 ・地域資源マップを作成（域内のタイムリーな花資源・食の回遊情報、景観ポイント他）。 ・交通安全に資する内容とルート名、SBW ロゴ入りの旗をつくり、ゲートウェイ付近に設置し、ドライバーに一定期間当ルートの名称を認知させる。
カムイ大雪バリアフリー推進協議会	旭川市	【「逃げバリ」でおもてなし】 バリアフリー観光等のおもてなし、その根底となる自分たちの日常の暮らしから防災を意識し、地域の障がい当事者も一緒に訓練や啓発活動に取り組むことが大切です。 ①地域で取り組む防災訓練を日常化させ、継続する。 ②視覚、聴覚を含む様々な障がいを考慮し、彼ら災害弱者に防災等の情報を伝えられる体制づくりを進める。 ③災害弱者への正しい情報公開として、障がい当事者や地域住民と一緒に支え合う防災体制を構築する。 障がい当事者による避難場所と経路のバリア調査をし、防災訓練の実施と地域住民への啓発イベントを開催する。
ハコダテ☆ものづくりフォーラム	函館市	【「ハコダテ☆ものづくりフォーラム」設計競技 2014】 函館観光を代表する「西部地区」に立地し、築後 100 年以上の歴史を有する景観形成指定建築物「旧ロシア領事館」は、我が国とロシアの国交の歴史を伝える記念碑的な建物であります。しかしながら平成 8 年の閉館以来、約 17 年にわたり利用されることなく今日に至っております。私共は旧領事館の活用と維持保全をテーマに「国際設計競技」を開催し「有効かつ実現性を重視した提案」を広く世界に求め、応募された優秀案を、行政はもとより広く市民に示すことにより、この建物を、この先、更に 100 年の後までも存続させて行くための契機といたします。 ・国際設計競技（コンペ）の実施 ・市民に向けた公開最終審査会の開催 ・作品集の作成および巡回展示会の開催
えにわシーニックプロジェクト	恵庭市	【風を感じ、ふと止まり、巡りながら地域の魅力発見！】 ○情報発信の充実 ・えにわサイクル・マップの作成 ・フェイスブック等の SNS を活用した情報発信 ・まちの語り部の育成 ○サイクリストへのサポート ・サイクル休憩所の設定（カフェ・コンビニ等の連携） ・自転車のマナー研修

特定非営利活動法人 八剣山エコケータリング	札幌市	【環境教育を主軸にした創造型エコツーリズムプログラムによる農業地域の活性化プロジェクト】 ドイツの生活環境の見直しと創造を目指す環境教育プログラムを参考にし、①都市近郊の自然環境資源が豊富な農業地域で、②これからの環境を創造する若者を対象に、③地域活性化を行って地域の関連団体や農家等の事業者と連携し、④生活の中でエネルギーとの関わりの創造型エコツーリズムプログラムをアートや観光といった楽しみや工夫をベースにしたワークショッププログラムの開発を行う。この結果、若い人材の育成とその効果として地域の見直しと活性化を図りたい。具体的には、「エネルギー大使になろう！」という環境教育プログラムを試験的に実施する。ドイツの環境教育を参考とし、オリジナルの創造型学習体験による人材育成を図りたい。また農業と観光で必要となるエネルギー源を意識させる活動や、アート技法を使ったものづくり事業の経験も付加したプログラムを開発し、地域独自のエコツーリズムとして育てたい。
釧路モカ女性プロジェクト	釧路市	【魚網たおるの製造・販売による地域活性化事業】 釧路の基幹産業である“漁業”の活性化と家庭環境等により就労困難な状態にある“女性”の就労創出の取組みです。魚網たおるの活動を一つのモデルとして、内職や会社に勤めるのではない『新しい働き方』（仕事＋居場所＋役割＋子どもと一緒に等）の提案も行います。釧路地域でのこの取組みを全道・全国へ発信すること（出張販売や物産展等でのPR活動等）で、魚網たおるの販売拡大を行い、女性たちの仕事増、釧路地域のPRにもつなげていきます。“自分らしく輝く”元気な女性が増えることで地域全体も活性化すると考えます。